

大震災はインターネット観覧揺動した？

～「震災とメディア」アンケート詳報～

これは、現代社会研究ゼミが7月11日に発刊した
「京だけ新聞 震災特別版」第4面の関連記事です

外大生は大震災の情報をどんなメディアでつかみ、何を考えたのだろうか。震災発生から約1カ月の4月11、12日、私はメディア関係の授業で「震災とメディア」アンケートを実施した。協力してくれた学生数は132人。2割近くの人が「今回、インターネットへの印象が変わった」と答えた。情報の信頼度の面ではテレビや新聞の優位性を認める一方で、「ネット情報は役に立つ」と感じた人が多かったのだ。主な数字を拾ってみた。

< 4人に1人が周囲に被災者 >

132人中36人までが、周囲に被災者がおり、震災の規模の大きさを伺わせた。

学生たちは、大地の揺れを感じたかどうか別として、「東北沖で巨大地震」の第一報をどのメディアからつかんだか。「テレビ」が断トツで、68.9%、次いで「携帯電話」の15.2%、「パソコン」5.3%で「ラジオ」「新聞」はほぼゼロだった。だが、1カ月の報道の流れを受けて、「最も信頼できるメディア」を聞くと、「テレビ」の47.1%の次は「新聞」25.7%だった。ネット利用者も多くが既存メディアのニュースサイトを活用してきたようだ。

Q2. あなたは「東日本大震災」で最初の巨大地震の発生した事実を、どのメディアで知りましたか（あなた自身、揺れを感じたとしても、ニュースの第一報はどこから？）

新聞 1人 テレビ 91人 ラジオ 1人
携帯電話のニュース 20人 パソコンのインターネット・ニュース 7人
その他 12人（知人、お店など）

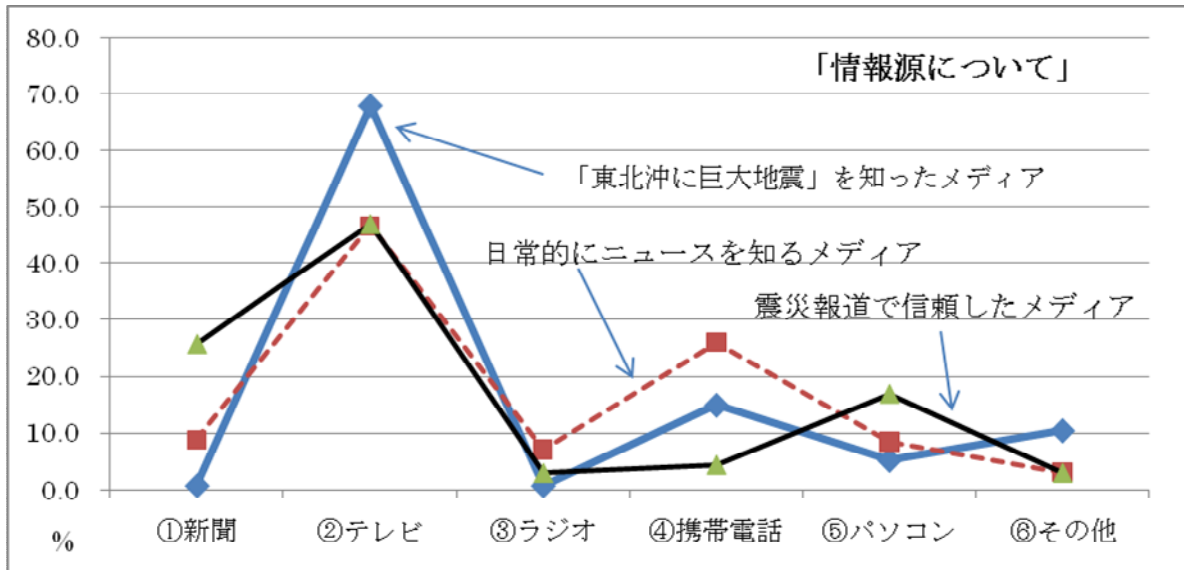
Q3. あなたは普段、ニュースを主にどんな手段で知りますか（2つまで）

新聞 20人 テレビ 106人 ラジオ 16人
携帯電話のニュース 59人 パソコンのインターネット・ニュース 19人
友人・知人 7人 その他 0人

Q4. 今回の震災を伝える報道で、どのメディアに最も信頼を寄せますか

新聞 35人 テレビ 64人 ラジオ 4人
携帯電話のニュース 6人 パソコンのインターネット・ニュース 23人
その他 4人

Q2～Q4を1つのグラフに重ねると



< 速報性と双方向性に評価 >

インターネットについて「役立ったと感じたことがあるか、それはどんな点か」を聞くと、7つの選択肢の中で「安否情報」が最も多く43・9%、続いて「余震の緊急地震速報」「既存メディアのニュースサイト」と、速報性が評価されていた。「SNSで意見交換」も19・7%あり第4位で、双方向性が活用されていた。9割の人が何かの項目に をつけ、その合計数は227件。つまり1人当たり1.7件を指摘しており、多様な活用方法を見出しているようだった。一方で、根拠のないうわさや流言の源としての「チェーンメール」を半数以上の人が「受け取った」と言う。

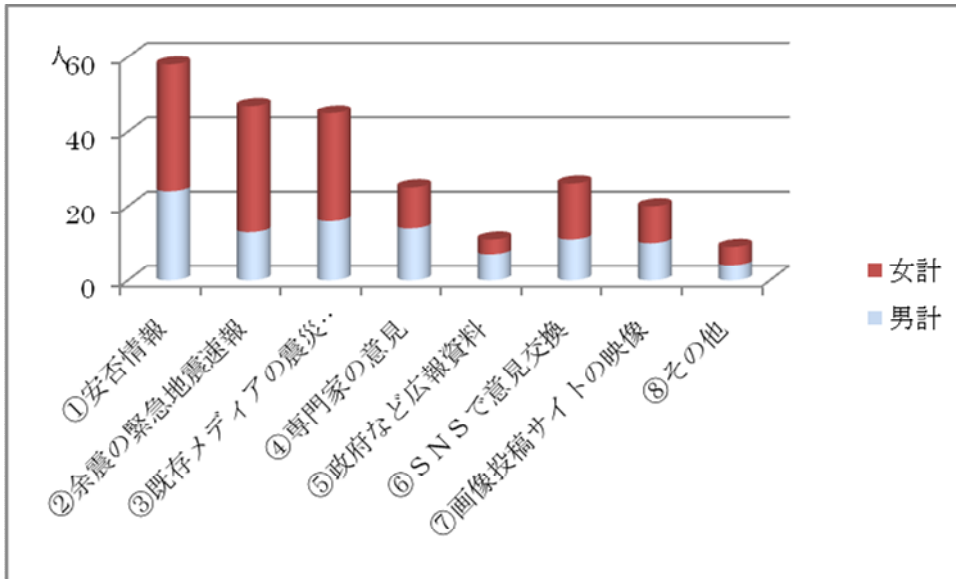
今回の騒動でインターネットについての印象が変わったか。「いい方向に変わった」が11・1%、「悪い方向に変わった」が7・9%いた。たった1カ月で約2割の人のインターネット観が変わったわけで、大震災の衝撃度の大きさを示したとも言える。

Q6. 今回、インターネットが、「自分にとって役に立つ」と感じるがありましたか。

あるとすれば、次のどんな点でしょうか。あてはまるものすべてに を

| | | | |
|-----------------|-----|-----------|-----|
| 安否情報 | 58人 | 余震の緊急地震速報 | 47人 |
| 既存メディアの震災関連ニュース | 45人 | 専門家の意見 | 25人 |
| 政府など広報資料 | 11人 | SNSで意見交換 | 26人 |
| 画像投稿サイトの映像 | 20人 | その他 | 9人 |

Q 6 の回答を男女別にみると



Q 7 . インターネット上では、根拠のないうわさや流言が飛び交いました。あなたは今回、そうした情報をチェーンメールの形で受け取ったことはありますか

ある 73人 ない 56人 わからない 2人

Q 8 . 今回の出来事でインターネットについての印象は変わりましたか

良い方向に変わった 14人 悪い方向に変わった 10人
変わらない 102人

< 8割以上が募金に応じた >

「被災者のために何らかの行動を起こしたか」。「募金」が84・8%で圧倒的。「物資を送る」4.5%、「被災地でボランティア」2.3%などが続いた。「その他」では「募金を呼びかけた」「節電」などがあつた。回答してくれた132人の中で延べ132件に参加した、つまりは押し並べて言うなら、全員が1件何らかの形で行動を起こした計算になる。

Q 9 . あなたはこの震災で、被災者のために何らかの行動を起こしましたか。次の中で参加した行動があれば を(いくつでも)

募金 112人 物資を送る 6人
被災地に出向いてボランティア活動 3人
外国人の支援 2人 被災者を居住地に招く 1人
その他 8人(募金呼びかけ、節電など)

これを「今回、どのメディアを信頼したか」の回答別にクロス集計を試みた。代表的な「新聞」「テレビ」「インターネット(携帯電話あるいはパソコン利用)」の3メディアを比較したところ、「新聞」支持者35人が延べ37件の行動を起こしたのに対して、「テレビ」は64人で延べ58件、「ネット」は29人で延べ24件。サンプルが少ないので決めつけはできないが、「学生の新聞読者は行動力あり」とも読める。

被災者のために何らかの行動を起こしたか

| (信頼するメディア別にみると) | 新聞 (35人) | テレビ (64人) | インターネット (29人) |
|-----------------|-------------|--------------|------------------|
| 募金 | 32 | 53 | 20 |
| 物資を送る | 2 | 2 | 1 |
| 被災地でボランティア | 1 | 0 | 2 |
| 外国人の支援 | 0 | 1 | 0 |
| 被災者を居住地に招く | 1 | 1 | 0 |
| その他 | 1 | 1 | 1 |
| 計 | 37 | 58 | 24 |

< 社会見直しの機会に >

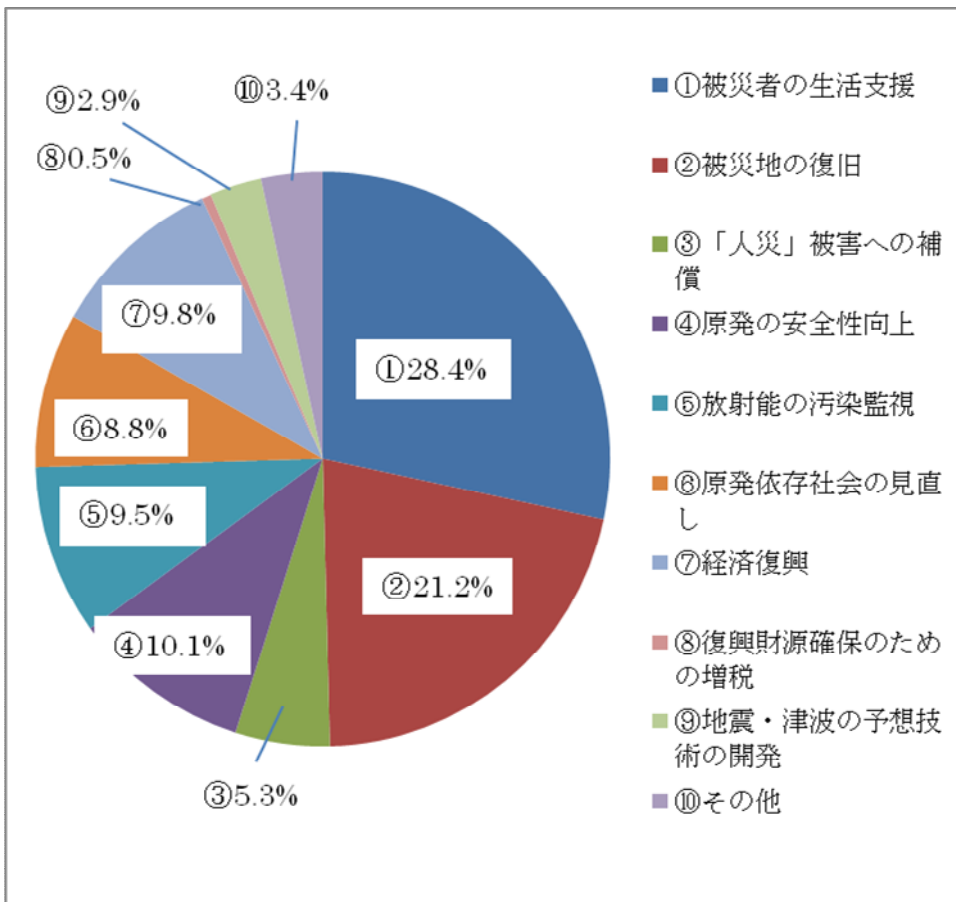
「今回震災の最重要課題」について10の選択肢のうち3つまでをつけてもらった。

結果は「被災者の生活再建」が最も多く、132人のうち107人が指摘。第2位には「被災地の復旧」80人が入り、「原発の安全性向上」「経済復興」「放射能汚染の監視」「原発依存の社会の見直し」が30人台で続いた。マスメディアも幅広い問題提起をしているが、学生側も、多様で困難な課題が山積みしていることを強く感じているようである。

Q10. 今回の震災に関して何が最重要課題だと考えますか。以下から3つ以内で

被災者の生活再建 107人 被災地の復旧 80人
「人災」被害への補償 20人 原発の安全性向上 38人
放射能汚染の監視 36人 原発依存の社会の見直し 33人
経済復興 37人 復興財源確保のための増税 2人
地震・津波の予測技術の開発 11人
その他 13 (仮設住宅の建設、電力不足など)

Q10の回答分布を円グラフにすると



震災から4カ月。地震動、津波、そして原発事故。これから私たちが立ち向かうべき課題はとても多様だ。「カネ」や「便利」にひた走ってきた現代社会のあり方を見直す機会として、幅広い視野を持って議論を深めていきたい。そのためには、日々の断片的なニュースにとらわれることなく、ものごとの因果関係や歴史を見つめる姿勢が大切だ。各種のメディアをうまく使いこなして、事実を収集すること、多様な意見・知恵を知ること、そのうえで、「問題解決に向けたアイデア」について話し合おう。「現状」を固定的に見てはいけない。若いみなさんが良く考えて声を上げれば世界は変わるのだ。人間・社会・自然のあたたかい関係を、自分の身の丈に合った行動で築きあげていこう。

(現代社会研究ゼミ担当・長谷邦彦)